

5月21日(木曜日)「ヒゼキヤ王(2)病気の時も」

【新改訳 2017】

Ⅱ列王記 20・1-11

「……『わたしはあなたの祈りを聞いた。あなたの涙も見た。見よ。わたしはあなたをいやす。三日目には、あなたは主の宮に上る。わたしは、あなたの寿命にもう15年を加えよう。……』」(5、6節)

一般に、「弱り目にたたり目」と言われるように、人間はしばしばこのような状態に陥ることがあります。ヒゼキヤ王のような信仰者でも、例外ではありませんでした。アッシリヤの王セナケリブの攻撃を受ける一方、自分自身は病気で死にかかっていました。アッシリヤの王のしもべ、ラブ・シャケによって彼はののしられ、屈辱を受けていました。

ヒゼキヤ王は、預言者イザヤの助けを受けつつ国家的危機のために熱く祈り、また自分の病気のためにも必死に祈りました。自分なりに主に忠実に

生きていたからでした。そして、死の予告から転じて、15年の寿命を加えるという主の恵みにあずかったのです。日ごろの忠実は、いざという時にも祈りの確信をもたらせるのです。

～祈り～

主よ。あなたのあわれみの大きさを感謝します。どうか常日頃あなたに対して忠実に歩み続け、確信をもって祈れる者にしてください。

【学びのために】

Ⅱ 歴代31・20、21章参照。